

「建築鉄骨超音波検査技術者」実技試験における 超音波探傷器の持込みについて

平成 22 年度「建築鉄骨超音波検査技術者 実技試験・更新試験」において、受験者が自ら持参する超音波探傷器等に関する諸条件は、次の通りです。

1. 持込みを認める超音波探傷器

- ・アナログ探傷器は全ての機種
- ・デジタル探傷器は下表に掲載した機種のみ（これ以外の機種では受験できません）

メーカー等	機 種
カールト [®] 仔 [®] （日本マテック）	ECHOGRAPH 1085, ECHOGRAPH 1086, ECHOGRAPH 1090 DAC/AVG, ECHOGRAPH 1090 DAC
クラウトレーマ [®] -(GE インスペクシヨ [®] ・テクノロジ [®] ・ス [®])	USM25J, USM25S, USM35, USM35X, USN52RJ, USN52LJ, USK7D, USM35RB, USM35XJE, USMGo
菱電湘南エレクトロニクス / 湘菱電子 / 三菱電機	UI-23, UI-25, UI-25S, UI-7S
神鋼検査サービス	HARD ECHO SH-63
ストレストル(信明 [®] ネラルアイ・エス・エル)	Flaw MIKE DAC
トキメック [®] レールテクノ/トキメック	SM-10R, SM-300
パナマトリクス NDT(オリンパス NDT)	EPOCH 4, EPOCH 4B, EPOCH 4PLUS, EPOCH EPOCH B, EPOCH LT, EPOCH LTC, EPOCH XT, EPOCH 1000, EPOCH 1000i

探触子（斜角・垂直）、探傷ケーブル、標準試験片（STB-A21・A3、Z-RB）、接触媒質（ソリコト）及び電源（AC 100V）は、会場に準備してあります。

アナログ探傷器の場合は、補助目盛板を持参して下さい。

2. 注意事項

- ・持込んだ探傷器の性能、取扱い、不具合及び事故等の処理は、一切、自己責任とします。
____ 探傷器は、必ず保守点検をし、取扱い方法を習得しておいて下さい。
なお、試験では、試験中に探傷器の不具合が発生した場合でも再受験を認めません。
- ・デジタル探傷器の場合、試験開始前及び終了後にイニシャライズ処理（全てのメモリーを消去）をします。重要なデータは、バックアップを取っておいて下さい。
- ・アナログ探傷器の場合、試験開始前に補助目盛板のエコー高さ区分線を消します。
- ・試験では、主催者が用意した探触子及び探傷ケーブルを使用します。この際、持参する探傷器の接栓が探傷ケーブルの接栓（探傷器側；レモ（大））と異なる場合は、主催者が接続用変換アダプターを用意しますので、必ず、申請書（裏面）に探傷器の接栓（型式）を記入して下さい。（接栓が不適合の場合、受験できません。）
- ・電源は、原則として AC 100V を使用して下さい。バッテリーを使用する場合は、試験時間（新規；約 4 時間、更新；約 2 時間）を充分満たしておく必要があります。（充電切れの場合でも再受験できません。なお、試験会場では充電不可。）
- ・探傷器は当日会場に持参して下さい。（宅配便等での会場への直送はお断りします。）

以上